

2025 年 11 月 28 日

「くひろぎん」SX ネクストローン」の実行について 【フタムラ化学株式会社】

株式会社広島銀行（頭取 清宗 一男）では、「くひろぎん」SX ネクストローン」を実行しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 案件概要 「くひろぎん」SX ネクストローン」の概要は【別紙 1】をご参照ください

融資実行日	2025 年 11 月 28 日
融資金額	5 億円
融資期間	7 年
目標	用水使用原単位（m3/t）の削減
その他	ひろぎんエリアデザイン株式会社から「くひろぎん」SX ネクストローンにかかる評価書【別紙 2】を取得しております。

2. 企業概要

会 社 名	フタムラ化学株式会社
所 在 地	愛知県名古屋市中村区名駅二丁目 29 番 16 号
代 表 者	長江 泰雄
業 種	化学製品製造販売業
事業内容等	「製品を通じて国家社会のお役に立つ」ことを社是として掲げ、活性炭事業から始まり、セルロース事業、プラスチックフィルム事業、フェノール積層板事業、糖質事業、アグリ事業、気体分離装置事業と多様な事業を展開しております。

以上



広島銀行では、SDGs への取組みを強化しております。

【SDGs（Sustainable Development Goals）持続可能な開発目標】
2015 年 9 月に国連で採択された、経済・社会・環境のあり方についての 2030 年までの世界共通目標。持続可能な開発のための 17 の目標と 169 のターゲットで構成。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社広島銀行
営業企画部 法人企画室
TEL (082) 247-5151（代表）

「〈ひろぎん〉SX ネクストローン」について

○特長

- ・地元企業のサステナビリティ向上に寄り添い、地域のサステナビリティ向上に資する取組みについて、資金面からご支援します。
- ・お客さまと地域のサステナビリティ向上につながる目標を設定していただき、目標達成の場合に金利引き下げを実施します。
- ・対外 PR 支援として、融資実行時に当行よりニュースリリースを行い、サステナビリティへの取組みの対外公表をご支援します。

○商品概要

対象となる方	以下のすべてを満たす法人のお客さま ・自社と地域のサステナビリティ向上に資する目標を設定※ ・年 1 回のレポーティングの実施（お客さまから銀行への報告） ※設定目標には、ひろぎんエリアデザインによる評価を実施
お使いみち	運転資金・設備資金
ご融資金額	当行所定の金額
ご融資期間	2 年以上（固定金利は 10 年以内）
ご融資利率	当行所定の金利（目標達成の場合、金利引下げを実施）
ご融資形式	証書貸付・当座貸越
ご返済方法	当行所定の審査によります
担保・保証人	
取扱手数料	組成難易度に応じてスキーム構築手数料が必要となります

- ・SX とは、Sustainability Transformation の略で、企業がサステナビリティ（持続可能性）を重視した経営方針に転換することです。
- ・本商品は環境省等が定めるガイドラインに適合する SLL（サステナビリティ・リンク・ローン）ではありません。

＜ひろぎん＞SXネクストローンにかかる評価書【別紙2】

フタムラ化学株式会社
＜ひろぎん＞SXネクストローン

発行日：2025年11月28日
発行者：ひろぎんエリアデザイン株式会社

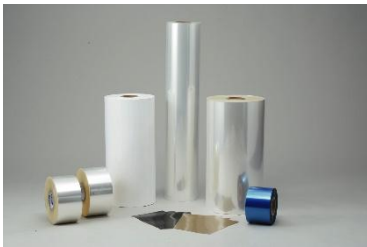
本文書は、株式会社広島銀行(以下、「貸付人」という)とフタムラ化学株式会社(以下、「借入人」という)の間の＜ひろぎん＞SXネクストローン(以下、「本ローン」)について、貸付人が、持続可能な地域社会の実現に貢献することを目的とし、地域特性や業種特性を踏まえて独自に設定した評価基準に基づき、借入人のサステナビリティに対する取り組みを評価したものであり、以下にその評価結果を報告する。

1. 借入人とサステナビリティ

(1) 会社概要

借入人は、愛知県名古屋市に本社を置く1947年創業の総合化学メーカーである。プラスチックフィルム、セロハン、ファイブラスケーシング、不織布、活性炭、フェノール樹脂積層板など多様な素材を製造・販売し、包装材や環境関連分野で国内トップクラスの実績を有している。「製品を通じて国家社会のお役に立つ」を社是とし、“化学と環境の架け橋に”をテーマに、研究開発から生産まで一貫した体制で高品質な製品を提供。国内外に拠点をもち、持続可能な社会の実現に貢献する企業として成長を続けている。

【主な製品】



プラスチックフィルム



セロハン



活性炭



不織布

(資料) 借入人より提供

企業名	フタムラ化学株式会社	
代表者	代表取締役社長 長江 泰雄	
本社所在地	愛知県名古屋市中村区名駅二丁目29番16号	
創業	1947年（昭和22年）4月	
設立	1950年（昭和25年）10月	
資本金	5億円	
従業員数	1986人（2025年3月末時点、連結）	
事業内容	・ 製造販売 ポリプロピレンフィルム ポリエステルフィルム セロハン 不織布 ファイブラスケーシング 活性炭 フェノール樹脂積層板	



(2) 事業内容

借入人は、プラスチックフィルム事業を中核に、セルロース・糖質・環境・産業素材まで多角的に展開し、化学技術を通じて、持続可能な社会と快適な暮らしの両立を目指している。

【借入人の事業領域】

事業領域区分	概要	主な製品・用途	特徴など
プラスチックフィルム事業	二軸延伸ポリプロピレン（OPP）フィルムやポリエステルフィルムを中心に、包装用・工業用フィルムを開発・製造	食品・医薬品・日用品包装、ラベル、印刷・工業用フィルムなど	- 国内トップクラスの生産量・技術力を有し、防曇・耐熱・易開封などの高機能化を推進 - バイオマス素材やリサイクル対応製品など、環境配慮型フィルム開発にも注力
セルロース事業	木材パルプ由来のセルロースを主原料とするセロハン、不織布などを開発・製造	食品・医薬品・日用品の包装フィルム、フェイスマスクなど	- 生分解性・再生可能性に優れた環境対応素材 - プラスチック代替として、サステナブル素材市場で高評価を獲得
活性炭事業	木質やヤシ殻などバイオマス由来原料を中心に活性炭（粉末・粒状等）を製造・販売	浄水場の水処理、砂糖や酒などの脱色精製、浄水器フィルター、空調機器フィルターなど	- 複数原料から用途に合わせた活性化設計が可能 - 自社再生設備による再生・粒度調整・洗浄乾燥等の供給体制を持ち、リサイクル利用を見据えた提供が可能
フェノール積層板事業	フェノール樹脂を含浸させた紙や布を積層・加熱圧縮して形成する工業素材を製造	電気絶縁材、機械構造材、電子・自動車部品など	- 耐熱性・機械強度・絶縁性に優れ、精密加工性も高い - 特殊用途や小ロット対応など、顧客ニーズに応じたカスタム製品を展開
糖質事業	天然原料を独自技術で加工した糖質製品の製造・販売	糖化製品、デキストリン、加工デンプン、可食性フィルムなど	- デンプン原料に特殊な物性を付与し、様々な食品分野へ応用 - フィルム化に適した特殊加工デンプンを活かした医薬用フィルム製剤分野への展開
アグリ事業	農業用資材や育成サポート製品を提供し、環境に配慮した農業を支援	農業用不織布、被覆資材、培地資材など	- 素材技術を活かし、保温・遮光・透湿など作物生育を最適化 - 農業現場の効率化・省資源化に貢献

(資料) 借入人ウェブサイト、「令和6年度版 フタムラ化学 CSRレポート」より作成



(3) サステナビリティ

借入人は、SDGsの達成に向けて以下の項目を重要課題として捉え、中長期目標を設定している。なお、各事業や企業全体で取り組んでいるSDGsへのアクションは合計235項目あり、SDGsの全17の目標のうち、12の目標に貢献してる。

【環境マネジメントにおける中長期目標】

1. 温室効果ガス削減



- 令和2年度の241千トン／年を基準に、令和7年度までにCO2排出量を5%削減する。

2. 水資源



- 令和2年度の14.8百万トン／年を基準に、令和7年度までに水使用量を5%削減する。

3. 化学物質管理



- 令和2年度の1,206トン／年を基準に、令和7年度までに二酸化炭素排出量を5%削減する。

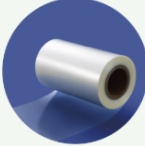
4. 廃棄物



- リサイクル率93%以上を毎年維持する。

(資料) 「令和6年度版 フタムラ化学 CSRレポート」より作成

【SDGsの取組実績】



バイオマスプラスチックを使用した食品包装用フィルムの製造

- 再生可能資源を利用した製品
- 石油由来原料の使用量削減



セルロース事業で使用している木材パルプは、持続可能な森林資源の活用に寄与

- 天然素材を利用した製品
- 堆肥化が可能



活性炭を利用し、水・大気の浄化に寄与

- 食品、医薬品、化学工業製品の製造に利用
- 浄水器、クリーンルーム用フィルター等に利用
- 排水、排ガスの浄化に利用



(資料) 借入人採用サイトより抜粋



こうした取組に関連し、借入人は、環境マネジメントに関する多様なイニシアチブに参画し、外部機関から高い評価を得ている。

【参画イニシアチブおよび外部評価】



プラスチックと賢く付き合いながら、未来へ向けた様々な活動を推進する、環境省が実施する取り組みです。フタムラグループは、プラスチック材料の循環利用、再利用などに取り組んでおります。



国連グローバル・コンパクト (UNGC)

各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。フタムラグループは、持続可能な消費と生産のパターンを確保するための活動などに取り組んでおります。



CLOMA (JAPAN CLEAN OCEAN MATERIAL ALLIANCE)

プラスチック製品の使用がより持続可能となる3Rの新たな取り組みや、代替素材の開発・導入を推進し、官民連携でイノベーションを加速化するため設立された組織です。フタムラグループは、持続可能な3Rの構築と、セルロース素材の開発・利用を行っております。



DBJ環境格付

企業の環境経営度を評点化し、優れた企業を選定する「環境格付」の手法を用いた、世界で初めての融資メニューです。フタムラ化学では、DBJ環境格付を活用した融資を受けております。



International Organization for Standardization

ISO規格

国際間の取り引きをスムーズにするために制定する、世界共通の基準です。フタムラグループは、品質9001・環境14001・食品安全22000に関する認証を取得しております。



International Sustainability & Carbon Certification

ISCC

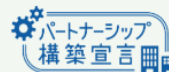
(国際持続可能性カーボン認証)

資源の持続可能性と追跡可能なサプライチェーンの実装を提供する、国際的な認証システムです。フタムラ化学では、ISCC PLUSの認証取得により、持続可能なバイオマス原料の調達に貢献します。



バイオマスマーク 欧州生分解性認証

多くのセルロース製品（NatureFlexTM、NatureLace®、セロハン、TCF）で一般社団法人日本有機資源協会のバイオマスマーク、欧州の認証機関であるTUV AUSTRIAの各種生分解性認証を取得しております。



パートナーシップ 構築宣言

サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップを構築します。

(資料) 借入人採用サイトより抜粋



2. 目標の選定

(1) 目標の概要

借入人は目標として、「用水使用原単位」を設定した。用水使用原単位とは、製品を製造するために必要な、単位あたりの水使用量を指す。

(2) 目標の重要性

本目標は、取水による地域の水資源への負荷軽減を通じた環境保全、渇水時の操業停止リスクの軽減、水使用料や排水処理コスト等の複合的なコスト削減、水資源管理による企業価値向上等につながるものであり、借入人のサステナビリティ経営において重要な意義を有する。

(3) 経営方針と目標の関係

借入人は、環境マネジメントにおける中長期目標の一つとして「水資源」を掲げ、水使用量の削減に向けて取り組んでいる。したがって、本目標として設定した「用水使用原単位」の削減は、同社のサステナビリティ経営と整合する取り組みである。

(4) 目標の有意義性

企業活動において水資源は、生産工程、冷却、洗浄、原材料加工など、あらゆる場面で不可欠な資源である。一方で、地球規模では人口増加や気候変動により、地域的な水不足や水質悪化が深刻化しており、水資源の持続可能な利用が国際的な課題となっている。こうした状況のもと、企業が自らの水使用を定量的に把握し削減を目指すことは、社会的責任の遂行に加え、事業の安定的継続を支えるうえでも極めて重要である。

環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」では、環境目標の設定に際し、(1)重要性の把握、(2)合理的根拠に基づく目標設定、(3)継続的改善、(4)情報開示と説明責任の確保、の4点が求められている。水使用量削減目標はこれらの観点から、以下の点で有意義である。

①環境負荷低減への直接的貢献

- 水使用量の削減は、取水量の低減による地域水資源への負荷軽減のみならず、排水処理や加熱・冷却などの工程に伴うエネルギー使用の削減にもつながる。これにより、温室効果ガス排出抑制や生態系保全など、他の環境側面にも波及効果をもたらす。

②事業リスクの軽減とレジリエンスの向上

- 気候変動の影響により、水資源の確保が不安定化するリスクが高まっている。水利用の効率化を進めることは、将来的な取水制限や水コスト上昇に対する備えとなり、事業継続性（BCP）を高める施策としての意義も大きい。

③ステークホルダーとの共生・信頼の確保

- 水は共有資源であり、地域社会や行政、取引先など多様なステークホルダーにとって関心の高いテーマである。企業が明確な削減目標を設定し、その進捗を透明性高く開示することは、説明責任を果たすとともに、社会的信頼の向上につながる。

④経営・環境統合の推進

- 水使用量の削減目標を単なる環境対策にとどめず、経営目標や生産性向上施策と連動させることで、コスト削減や技術革新にもつながる。環境と経営を統合的に捉える取り組みは、持続可能な経営基盤の確立に資する。

以上のとおり、本目標は、環境保全のみならず、企業の持続可能な成長と社会的信頼を支える重要な取り組みである。



3. 目標値の設定

本ローンの目標値の設定については、以下の（１）から（３）の観点より適切な内容で設定されていると評価する。

（１）目標値の概要

借入人は、目標として設定した「用水使用原単位」について、2026年３月期から2032年３月期にかけて下表のとおり目標値を設定した。

【借入人の目標値】				実績								本目標値の対象							
	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期	2027年 3月期	2028年 3月期	2029年 3月期	2030年 3月期	2031年 3月期	2032年 3月期	(参考) 2033年 3月期								
用水使用原単位 (m3/t)	76.0	79.6	69.5	68.8	68.1	67.4	66.7	66.0	65.3	64.6	63.9								

(注) 各年度の判定期間は4月1日～3月31日。初回判定日は2026年3月31日。

（２）目標値の妥当性

前述のとおり、企業が自らの水使用を定量的に把握し削減を目指すことは、社会的責任の遂行に加え、事業の安定的継続を支えるうえでも極めて重要である。

以上から、用水使用原単位（m3/t）を2025年3月期を基準として每期1％削減するといった本目標は、環境保全のみならず、企業の持続可能な成長等に重要かつ挑戦的な目標であると判断する。

（３）目標値の適切性

目標値の適切性については、第三者機関であるひろぎんエリアデザインから評価書を取得している。

借入人は、前述の「1. 借入人とサステナビリティ」、「2. 目標の選定」、「3. 目標値の設定」に関して、自らの対応について客観的な評価が必要と判断し、ひろぎんエリアデザインによるレビュー及び目標値として設定する指標の検証を依頼した。

当該依頼を受け、ひろぎんエリアデザインは、地域特性や業種特性を踏まえて借入人が独自に設定した評価基準について確認の上、評価書を作成した。貸付人も、ひろぎんエリアデザインが評価書を作成することを承諾している。ひろぎんエリアデザインの評価書は貸付人に提供される。



ひろぎんエリアデザイン 会社概要

社名 ひろぎんエリアデザイン株式会社

代表者 代表取締役社長 松内 紀子

所在地 〒730-0031
広島県広島市中区紙屋町1丁目3-8

設立 2021年4月1日

資本金 1億円

株主 株式会社ひろぎんホールディングス

TEL 082-504-3016



留意事項

1. ひろぎんエリアデザインの評価について

本文書については、貸付人が借入人に対して実施する〈ひろぎん〉SXネクストローンについて、設定する目標の妥当性に対する評価を述べたものです。

その内容は、入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

ひろぎんエリアデザインは、当文書のあらゆる使用から生じる直接的・間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

2. 貸付人との関係性、独立性

ひろぎんエリアデザインは、ひろぎんグループに属しており、貸付人及びひろぎんグループ企業との間、及びひろぎんグループのお客さま相互の間における利益相反のおそれのある取引等に関して、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。

また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は、貸付人とは独立して行われるものであり、貸付人からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

3. ひろぎんエリアデザインの第三者性

借入人とひろぎんエリアデザインとの間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係等の特別な利害関係はございません。

4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利は、ひろぎんエリアデザインが保有しています。本文書の全部または一部を、自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻訳、頒布等を行うことは禁止されています。